

改正理由	一部改正	改正 ----- 現行	
------	------	-------------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

**2.1.2 作業土工**

**2.1.2.1 床掘り**

1. 適用

河川・道路工事における床掘りに適用する。

2. 数量算出項目

床掘りは、2. 1. 1 土工参照の上、算出するものとする。

3. 区分

区分は、土質区分、施工方法、土留方式の種類、障害の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	土質	施工方法	土留方式の種類	単位	数量	備考
床掘り		○	○	○	m <sup>3</sup>		
掘削補助機械搬入搬出					回		
基面整正					m <sup>2</sup>		
舗装版破砕積込 (小規模土工)					m <sup>2</sup>		

(2) 土質  
土質による区分は、以下のとおりとする。

```

土質
├── 土砂
└── 岩塊・玉石
    
```

(3) 施工方法区分  
施工方法による区分は、以下のとおりとする。

```

施工方法
├── 標準
│   ├── 平均施工幅 1m 以上 2m 未満
│   ├── 掘削深さ 5m 超 20m 以下
│   ├── 掘削深さ 20m 超
│   └── 上記以外 (小規模)
└── 現場制約あり
    
```

注) 1. 施工方法「上記以外 (小規模)」とは、1 箇所当りの施工土量が 100m<sup>3</sup> 程度まで、又は平均施工幅 1m 未満の床掘りで、「1 箇所当り」とは、目的物 1 箇所当りであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を 1 箇所とする。  
2. 施工方法「現場制約あり」とは、機械施工が困難な場合。

(4) 土留方式の種類  
土留方式の種類による区分は、以下のとおりとする。

```

土留方式の種類
├── 無し
├── 自立式
├── グランドアンカー式
└── 切梁腹起式
    
```

**2.1.2 作業土工**

**2.1.2.1 床掘り**

1. 適用

河川・道路工事における床掘りに適用する。

2. 数量算出項目

床掘り、**床掘り (ICT)** は、2. 1. 1 土工参照の上、算出するものとする。

3. 区分

区分は、土質区分、施工方法、土留方式の種類、障害の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

**床掘り**

項目	区分	土質	施工方法	土留方式の種類	障害の有無	単位	数量	備考
床掘り		○	○	○	○	m <sup>3</sup>		
掘削補助機械搬入搬出						回		
基面整正						m <sup>2</sup>		
舗装版破砕積込 (小規模土工)						m <sup>2</sup>		

**床掘り (ICT)**

項目	区分	土質	施工方法	土留方式の種類	障害の有無	単位	数量	備考
床掘り (ICT)		○	○	○	○	m <sup>3</sup>		

(2) 土質  
土質による区分は、以下のとおりとする。

```

土質
├── 土砂
└── 岩塊・玉石
    
```

(3) 施工方法区分  
施工方法による区分は、以下のとおりとする。

**床掘り**

```

施工方法
├── 標準
│   ├── 平均施工幅 1m 以上 2m 未満
│   ├── 掘削深さ 5m 超 20m 以下
│   ├── 掘削深さ 20m 超
│   └── 上記以外 (小規模)
└── 現場制約あり
    
```

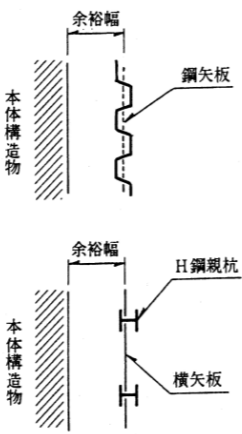
注) 1. 施工方法「上記以外 (小規模)」とは、1 箇所当りの施工土量が 100m<sup>3</sup> 程度まで、又は平均施工幅 1m 未満の床掘りで、「1 箇所当り」とは、目的物 1 箇所当りであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を 1 箇所とする。  
2. 施工方法「現場制約あり」とは、機械施工が困難な場合。

次頁へ移動

注意事項		(控え頁)	1/4
------	--	-------	-----

改正理由	一部改正	改正 ----- 現行	
------	------	-------------------	--

現 行		改 正	備 考																																																								
<p>(5) 掘削補助機械搬入搬出 「搬入+搬出」を1回として必要回数を計上する。</p> <p><b>4. 数量算出方法</b> 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>(1) 床掘り勾配及び余裕幅 オープン掘削の床掘り勾配は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>土質区分</th> <th>掘削面の高さ</th> <th>床掘り勾配</th> <th>小段の幅</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">中硬岩・硬岩</td> <td>5m未満</td> <td>直</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>全掘削高5m以上</td> <td>1：0.3</td> <td>下からH=5m毎に1m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">軟岩Ⅰ・軟岩Ⅱ</td> <td>1m未満</td> <td>直</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>1m以上5m未満</td> <td>1：0.3</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>全掘削高5m以上</td> <td>1：0.3</td> <td>下からH=5m毎に1m</td> </tr> <tr> <td>1m未満</td> <td>直</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石</td> <td>1m以上5m未満</td> <td>1：0.5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>全掘削高5m以上</td> <td>1：0.6</td> <td>下からH=5m毎に1m</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">砂</td> <td>5m未満</td> <td>1：1.5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>全掘削高5m以上</td> <td>1：1.5</td> <td>下からH=5m毎に2m</td> </tr> <tr> <td>発破などにより崩壊しやすい状態になっている地山</td> <td>2m未満</td> <td>1：1.0</td> <td>下からH=2m毎に2m</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 上記により難しい場合は、別途考慮できる。</p> <p>余裕幅は、下表のとおりとする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>足場工の有無</th> <th>余裕幅</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">オープン掘削</td> <td>足場工なし</td> <td>50cm</td> </tr> <tr> <td>足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)</td> <td>170cm (50cm)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">土留掘削</td> <td>足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)</td> <td>100cm (70cm)</td> </tr> <tr> <td>足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)</td> <td>220cm (100cm)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 余裕幅は本体コンクリート端からとする。 2. 矢板施工の余裕幅は矢板のセンターからの距離。 3. 足場工が必要な場合とは、H=2m以上の構造物。 4. 雪寒仮囲いを使用する場合は、必要幅を計上すること。 5. 小構造物等で、これによることが不適当な場合は別途余裕幅を考慮する。 6. 共同溝等の特殊な場合は、別途取り扱う。</p>	土質区分	掘削面の高さ	床掘り勾配	小段の幅	中硬岩・硬岩	5m未満	直	—	全掘削高5m以上	1：0.3	下からH=5m毎に1m	軟岩Ⅰ・軟岩Ⅱ	1m未満	直	—	1m以上5m未満	1：0.3	—		全掘削高5m以上	1：0.3	下からH=5m毎に1m	1m未満	直	—	レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石	1m以上5m未満	1：0.5	—	全掘削高5m以上	1：0.6	下からH=5m毎に1m	砂	5m未満	1：1.5	—	全掘削高5m以上	1：1.5	下からH=5m毎に2m	発破などにより崩壊しやすい状態になっている地山	2m未満	1：1.0	下からH=2m毎に2m	種別	足場工の有無	余裕幅	オープン掘削	足場工なし	50cm	足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	170cm (50cm)	土留掘削	足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)	100cm (70cm)	足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	220cm (100cm)	<p>現行なし</p> <p>前頁から移動</p> <p>現行なし</p> <p>現行どおり</p> <p>次頁へ移動</p>	<p>床掘り(ICT)</p> <p>施工方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準</li> <li>平均施工幅 1m以上 2m未満</li> </ul> <p>(4) 土留方式の種類 土留方式の種類による区分は、以下のとおりとする。</p> <p>土留方式の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>無し</li> <li>自立式</li> <li>グラウンドアンカー式</li> <li>切梁腹起式</li> </ul> <p>(5) 障害の有無 障害の有無は、以下のとおりとする。 有り: ①床掘り作業において、障害物等により施工条件に制限がある場合(たとえば作業障害が多い場合) ②土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害がある場合 ③「平均施工幅2m以上」及び「平均施工幅1m以上2m未満」において掘削箇所が地下水位等で排水をせず水中掘削作業を行う場合 無し: ①構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されないオープン掘削の場合 ②構造物及び建造物等の障害物や交通の影響により施工条件が制限されない矢板のみの土留・仮締め切り工法掘削の場合 ③土留・仮締切工の中に切梁・腹起し又は基礎杭等の障害がない場合</p> <p>(6) 掘削補助機械搬入搬出 「搬入+搬出」を1回として必要回数を計上する。</p>	<p>記載の追加</p> <p>記載の追加</p>
土質区分	掘削面の高さ	床掘り勾配	小段の幅																																																								
中硬岩・硬岩	5m未満	直	—																																																								
	全掘削高5m以上	1：0.3	下からH=5m毎に1m																																																								
軟岩Ⅰ・軟岩Ⅱ	1m未満	直	—																																																								
	1m以上5m未満	1：0.3	—																																																								
	全掘削高5m以上	1：0.3	下からH=5m毎に1m																																																								
	1m未満	直	—																																																								
レキ質土・砂質土 粘性土・岩塊玉石	1m以上5m未満	1：0.5	—																																																								
	全掘削高5m以上	1：0.6	下からH=5m毎に1m																																																								
砂	5m未満	1：1.5	—																																																								
	全掘削高5m以上	1：1.5	下からH=5m毎に2m																																																								
発破などにより崩壊しやすい状態になっている地山	2m未満	1：1.0	下からH=2m毎に2m																																																								
種別	足場工の有無	余裕幅																																																									
オープン掘削	足場工なし	50cm																																																									
	足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	170cm (50cm)																																																									
土留掘削	足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)	100cm (70cm)																																																									
	足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	220cm (100cm)																																																									

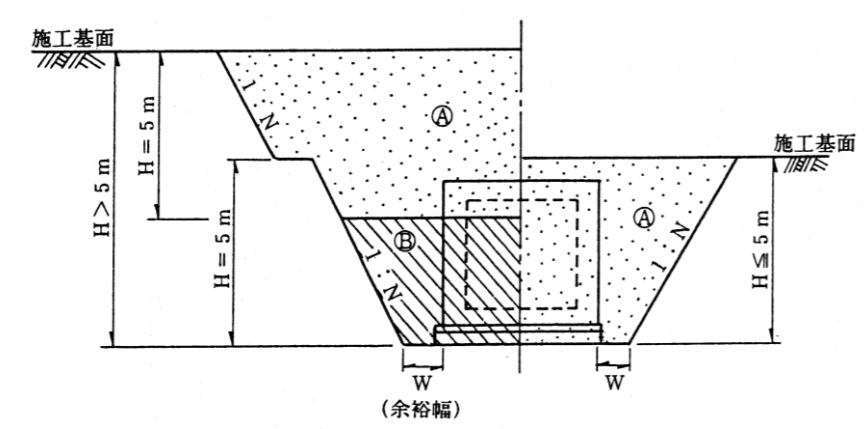


注意事項			(控え頁)  2/4
------	--	--	------------------

改正理由	一部改正	改正 ----- 現行	
------	------	-------------------	--

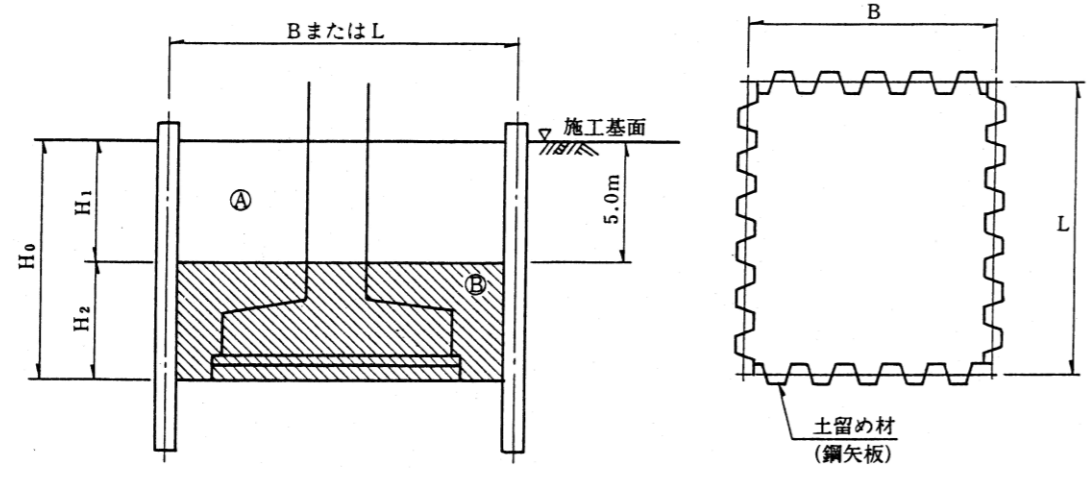
現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

(2) 積算区分  
1) オープン掘削の場合  
施工基面からの床掘り深さにより、下図を参照して施工基面から5m以下の部分をA領域、施工基面から5mを超える部分をB領域に区分して算出する。



2) 土留掘削の場合  
施工基面からの床掘り深さにより、下図を参照して施工基面から5m以下の部分をA領域、施工基面から5mを超える部分をB領域に区分して算出する。

a) 自立式土留工の場合



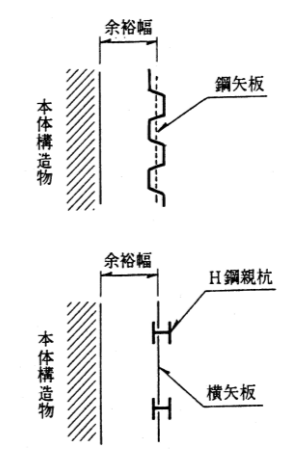
注) 1. 土留工の規模等により、A領域で同一機種による床掘りが不適当な場合は、別途その部分の断面積を区分できるものとする。  
2. B領域においては、基礎杭等の作業障害がある場合とない場合に区分して算出する。

1-2-14

前頁から移動 →

余裕幅は、下表のとおりとする。

種別	足場工の有無	余裕幅
オープン掘削	足場工なし	50cm
	足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	170cm (50cm)
土留掘削	足場工なし (プレキャスト構造物で自立型土留めの場合)	100cm (70cm)
	足場工あり (フーチング高さ2m未満でフーチング上に足場を設置する場合)	220cm (100cm)



- 注) 1. 余裕幅は本体コンクリート端からとする。  
2. 矢板施工の余裕幅は矢板のセンターからの距離。  
3. 足場工が必要な場合は、H=2m以上の構造物。  
4. 雪寒仮囲いを使用する場合は、必要幅を計上すること。  
5. 小構造物等で、これによることが不適当な場合は別途余裕幅を考慮する。  
6. ~~共同溝等~~の特殊な場合は、別途取り扱う。

現行どおり

次頁へ移動

記載の削除

注意事項			(控え頁) 3/4
------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 ----- 現行	
------	------	-------------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

**2.1.2.2 埋戻工**

1. 適用

構造物の築造及び撤去後の床掘り部における埋戻しに適用する。

2. 数量算出項目

埋戻し、タンパ締固めの土量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、施工方法、土質区分、締固めの有無とする。

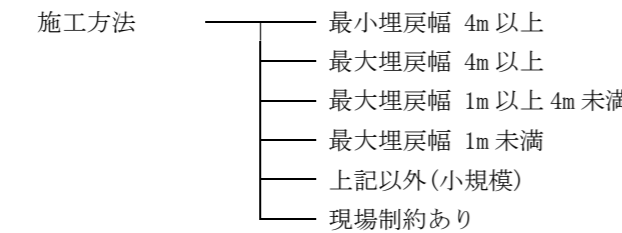
(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項 目	区 分	施工 方法	土質	締固 めの 有無	単位	数量	備考
埋 戻 し		○	○	○	m3		
タ ン パ 締 固 め		×	×	×	m3		

注) 1. 土量は、締固め後の土量である。

(2) 施工方法区分

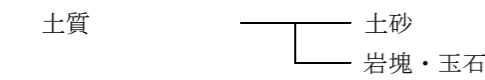
施工方法による区分は、以下のとおりとする。



施工方法「現場制約あり」とは、機械施工が困難な場合。

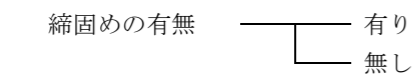
(3) 土質区分

土質による区分は、以下のとおりとする。



(4) 締固めの有無区分

締固めの有無による区分は、以下のとおりとする。

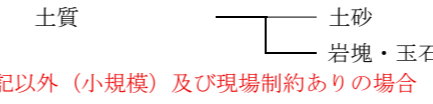


1-1-17

現行どおり

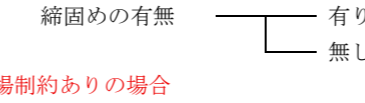
(3) 土質区分

土質による区分は、以下のとおりとする。



(4) 締固めの有無区分

締固めの有無による区分は、以下のとおりとする。



記載の追加

注意事項			(控え頁) 4/4
------	--	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 ----- 現行	
------	------	-------------------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

③石積(張)

項目	区分	3次元モデル	属性情報						
			積張の区分	構造区分	石の種類	胴込・裏込 コンクリート規格	裏込材規格	単位	数量
石積(張)	B	○	○	○	×		m <sup>2</sup>		
石積(張) (材料費)	B	×	×	×	×		m <sup>2</sup>		
胴込・裏込 コンクリート	A	○	×	×	○		m <sup>3</sup>		
裏込材 (クラッシュ)	A	○	×	×	×	○	m <sup>3</sup>		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする  
 注) 吸出し防止材を全面に設置する場合は、別途考慮する。

- (2) 石の種類による区分  
 石の種類による区分は、以下のとおりとする。
- 石の種類
- 玉石
  - 雑割石

- (3) 直高による区分  
 直高による区分は、以下のとおりとする。
- 直高
- 1. 0m以上1.5m以下
  - 1.5m超え2.0m以下
  - 2. 0m超え2.5m以下
  - 2.5m超え3.0m以下
  - 3. 0m超え5.0m以下

- (4) 構造区分  
 構造区分は、以下のとおりとする。
- 構造区分
- 練石
  - 空石

- (5) 玉石控による区分  
 玉石控による区分は、以下のとおりとする。
- 玉石控
- 25cm以上35cm以下
  - 30cm以上40cm以下
  - 35cm以上45cm以下
  - 40cm以上50cm以下
  - 45cm以上50cm以下

1-5-25

③石積(張)

項目	区分	3次元モデル	属性情報						
			積張の区分	構造区分	石の種類	胴込・裏込 コンクリート規格	裏込材規格	単位	数量
石積(張)	B	○	○	○	×		m <sup>2</sup>		
石積(張) (材料費)	B	×	×	×	×		m <sup>2</sup>		
胴込・裏込 コンクリート	A	○	×	×	○		m <sup>3</sup>		
裏込材 (クラッシュ)	A	○	×	×	×	○	m <sup>3</sup>		

現行どおり

(記載の変更)

注意事項		(控え頁)	1/1
------	--	-------	-----

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現行	改正	備考
----	----	----

6.3 補強盛土工

1. 適用

ジオテキスタイル（ジオグリッド、ジオネット、織布、不織布）を用いた補強盛土及びジオテキスタイル補強土壁（鋼製枠タイプ）に適用する。  
ただし、軟弱地盤における敷設材工法及び盛土の補強工法は適用範囲外とする。

2. 数量算出項目

ジオテキスタイル壁面材組立・設置、ジオテキスタイル壁面材（材料費）、ジオテキスタイル敷設、まき出し・敷均し、締固め、ジオテキスタイル（材料費）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			規格	単位	数量	備考
ジオテキスタイル壁面材組立・設置		B	○	m <sup>2</sup>		
ジオテキスタイル壁面材(材料費)		B	○	m <sup>2</sup>		
ジオテキスタイル敷設		B	○	m <sup>2</sup>		
まき出し・敷均し、締固め		A	○	m <sup>3</sup>		
ジオテキスタイル(材料費)		B	○	m <sup>2</sup>		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 壁面材の種類は下表を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。

壁面材種類	規格		備考
	幅 (mm)		
鋼製枠タイプ	2,000		タイプA
	2,000		タイプB
	1,000		タイプC
	1,200		タイプD

2. 補強盛土1段当りのまき出し厚さ及び締固め回数に関係なく適用する。

1-6-7

現行どおり

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			規格	単位	数量	備考
ジオテキスタイル壁面材組立・設置		B	○	m <sup>2</sup>		
ジオテキスタイル壁面材(材料費)		B	○	m <sup>2</sup>		
ジオテキスタイル敷設		B	○	m <sup>2</sup>		
まき出し・敷均し、締固め		A	○	m <sup>3</sup>		
ジオテキスタイル(材料費)		B	○	m <sup>2</sup>		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 壁面材の種類は下表を標準としており、これにより難い場合については別途考慮する。

壁面材種類	規格		備考
	幅 (mm)	一層当り施工高	
鋼製枠タイプ	2,000	500mm以下	タイプA
	2,000	600mm以下	タイプB
	1,000	600mm以下	タイプC
	1,200	600mm以下	タイプD

2. 補強盛土1段当りのまき出し厚さ及び締固め回数に関係なく適用する。

(記載の変更)

注意事項		(控え頁) 1/1
------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現 行	備 考
現	行	改 正	備 考
	<p>3) 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>a) 1セット当り施工量（V）及び支保耐力（P）を次式により算出する。 （注）1セットとは、単純支持梁の場合は1径間、連続梁の場合は1連続をいう。</p> <p>① 1セット当りの施工量（V）  <math display="block">V = (W + 2.4) \times H \times L \text{ (空m}^3\text{)} \dots\dots\text{式2.1}</math> W：地覆外縁間距離（m）  H：平均桁下高さ（m）  L：1セット当り施工延長（m）</p> <p>※ 開口部が必要とする場合の1セット当り施工量（Vm）  <math display="block">V_m = \text{式2.1} - \text{式3.1} \text{ (空m}^3\text{)} \dots\dots\text{式2.2}</math> （支柱支保延長（m）＝開口部延長（L）＋1.0）</p> <p>② 支保耐力（P）  <math display="block">P = (2.81 \times d + 0.4) \times \frac{W}{W1} \times 9.80665 \text{ (kN/m}^2\text{)} \dots\dots\text{式2.3}</math> d：平均コンクリート厚（m）  W：地覆外縁間距離（m）  W1：中央床版幅（m）</p> <p>b) くさび結合支保工概念図</p> <p>注) dは、Wに対する平均コンクリート厚であり、中空部、地覆部及び変断面図等を考慮し算出する。  なお、dの算定式は、  <math display="block">d = \text{コンクリート体積 (m}^3\text{)} \div [\text{W (m)} \times \text{桁長 (m)}] \text{ (m)}</math> とする。</p> <p style="text-align: center;">3-5-19</p>	<p>3) 数量算出方法 数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。</p> <p>a) 1セット当り施工量（V）及び支保耐力（P）を次式により算出する。 （注）1セットとは、<b>単純桁の場合は1径間、連続桁を一括施工する場合は全径間、分割施工する場合は分割する当該径間を含む1連続をいう。</b></p> <p>① 1セット当りの施工量（V）  <math display="block">V = (W + 2.4) \times H \times L \text{ (空 m}^3\text{)} \dots\dots\text{式2.1}</math> W：地覆外縁間距離（m）  H：平均桁下高さ（m）  L：1セット当り施工延長（m）</p> <p>※ 開口部が必要とする場合の1セット当り施工量（Vm）  <math display="block">V_m = \text{式2.1} - \text{式3.1} \text{ (空 m}^3\text{)} \dots\dots\text{式2.2}</math> （支柱支保延長（m）＝開口部延長（L）＋1.0）</p> <p>② 支保耐力（P）  <math display="block">P = (2.81 \times d + 0.4) \times \frac{W}{W1} \times 9.80665 \text{ (kN/m}^2\text{)} \dots\dots\text{式2.3}</math> d：平均コンクリート厚（m）  W：地覆外縁間距離（m）  W1：中央床版幅（m）</p> <p>b) くさび結合支保工概念図</p> <p>注) dは、Wに対する平均コンクリート厚であり、中空部、地覆部及び変断面図等を考慮し算出する。  なお、dの算定式は、  <math display="block">d = \text{コンクリート体積 (m}^3\text{)} \div [\text{W (m)} \times \text{桁長 (m)}] \text{ (m)}</math> とする。</p>	記載の変更
			(記載の変更)
注意事項			(控え頁) 1/2

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現	行	改	正	備 考
---	---	---	---	-----

a) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	3次元 モデル	開口部 延長(m)	属性情報				備考
			支保耐力 (kN/m <sup>2</sup> ) (t/m <sup>2</sup> )	支保高さ (m)	単位	数量	
支柱支保	A	7 以下	19.6 以上 29.4 未満 (2.0 以上 3.0 未満)	1.5 以上 4.6 未満	空 m <sup>3</sup>		
				4.6 以上 7.6 未満			
				7.6 以上 10.6 以下			
			29.4 以上 39.2 未満 (3.0 以上 4.0 未満)	1.5 以上 4.6 未満			
				4.6 以上 7.6 未満			
				7.6 以上 10.6 以下			
			39.2 以上 49.0 未満 (4.0 以上 5.0 未満)	1.5 以上 4.6 未満			
				4.6 以上 7.6 未満			
				7.6 以上 10.6 以下			
			49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)	1.5 以上 4.6 未満			
				4.6 以上 7.6 未満			
				7.6 以上 10.6 以下			
		10 以下	19.6 以上 29.4 未満 (2.0 以上 3.0 未満)	1.6 以上 4.8 未満			
				4.8 以上 7.8 未満			
			29.4 以上 39.2 未満 (3.0 以上 4.0 未満)	1.6 以上 4.8 未満			
				4.8 以上 7.8 未満			
			39.2 以上 49.0 未満 (4.0 以上 5.0 未満)	1.6 以上 4.8 未満			
				4.8 以上 7.8 未満			
			49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)	1.6 以上 4.8 未満			
4.8 以上 7.8 未満							
13 以下	19.6 以上 29.4 未満 (2.0 以上 3.0 未満)	1.8 以上 4.8 未満					
		4.8 以上 7.8 未満					
	29.4 以上 39.2 未満 (3.0 以上 4.0 未満)	1.8 以上 4.8 未満					
		4.8 以上 7.8 未満					
	39.2 以上 49.0 未満 (4.0 以上 5.0 未満)	1.8 以上 4.8 未満					
		4.8 以上 7.8 未満					
	49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)	1.8 以上 4.8 未満					
		4.8 以上 7.8 未満					

「支柱支保」は、3次元モデルを用いて体積を算出し、属性情報を用いて区分することより「A」を適用する

3-5-21

a) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	3次元 モデル	開口部 延長(m)	属性情報				備考	
			支保耐力 (kN/m <sup>2</sup> ) (t/m <sup>2</sup> )	支保高さ (m)	単位	数量		
支柱支保	A	7 以下	19.6 以上 29.4 未満 (2.0 以上 3.0 未満)	4.0 以上 7.0 未満	空 m <sup>3</sup>			
				7.0 以上 10.0 以下				
				29.4 以上 39.2 未満 (3.0 以上 4.0 未満)				4.0 以上 7.0 未満
			39.2 以上 49.0 未満 (4.0 以上 5.0 未満)	4.0 以上 7.0 未満				
				7.0 以上 10.0 以下				
				49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)				4.0 以上 7.0 未満
			49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)	4.0 以上 7.0 未満				
				7.0 以上 10.0 以下				
			10 以下	19.6 以上 29.4 未満 (2.0 以上 3.0 未満)				4.0 以上 7.0 未満
								7.0 以上 10.0 以下
		29.4 以上 39.2 未満 (3.0 以上 4.0 未満)		4.0 以上 7.0 未満				
				7.0 以上 10.0 以下				
		39.2 以上 49.0 未満 (4.0 以上 5.0 未満)		4.0 以上 7.0 未満				
				7.0 以上 10.0 以下				
		49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)		4.0 以上 7.0 未満				
				7.0 以上 10.0 以下				
		13 以下	19.6 以上 29.4 未満 (2.0 以上 3.0 未満)	4.0 以上 7.0 未満				
				7.0 以上 10.0 以下				
29.4 以上 39.2 未満 (3.0 以上 4.0 未満)	4.0 以上 7.0 未満							
	7.0 以上 10.0 以下							
39.2 以上 49.0 未満 (4.0 以上 5.0 未満)	4.0 以上 7.0 未満							
	7.0 以上 10.0 以下							
49.0 以上 58.8 以下 (5.0 以上 6.0 以下)	4.0 以上 7.0 未満							
	7.0 以上 10.0 以下							

現行どおり

記載の変更

注意事項		(控え頁) 2/2
------	--	--------------

改正理由	一部改正	改正 現行	
------	------	----------	--

現 行	改 正	備 考
-----	-----	-----

**8.3 沓座拡幅工**

1. 適用

コンクリート沓座拡幅工のうちコンクリート削孔、充填補修、チッピング、アンカー筋挿入、鉄筋組立、型枠製作・設置・撤去、コンクリート打設・養生、足場及び防護、鋼製ブラケット沓座拡幅工のうちコンクリート削孔、アンカーボルト挿入、充填補修、不陸整正、鋼製ブラケット設置、足場及び防護に適用する。

2. 数量算出項目

チッピング（厚2cm以下）、アンカー筋挿入（コンクリート沓座拡幅）、アンカー筋（材料費）、注入材（材料費）、鉄筋（沓座拡幅工）、型枠（沓座拡幅工）、コンクリート（沓座拡幅工）の数量を算出する。

3. 区分

区分は、規格とする

(1) 数量算出項目一覧表

項目	3次元モデル	属性情報			
		規格	単位	数量	備考
チッピング（厚2cm以下）	B	×	m <sup>2</sup>		
アンカー筋挿入（コンクリート沓座拡幅）	B	○	本		
アンカー筋（材料費）	B	○	本		
注入材（材料費）	B	○	本		
鉄筋（沓座拡幅工）	B	○	t		
型枠（沓座拡幅工）	B	×	m <sup>2</sup>		
コンクリート（沓座拡幅工）	A	○	m <sup>3</sup>		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

現行どおり

2. 数量算出項目

チッピング（厚2cm以下）、アンカー筋挿入（コンクリート沓座拡幅）、アンカー筋（材料費）、注入材（材料費）、鉄筋（沓座拡幅工）、型枠（沓座拡幅工）、コンクリート（沓座拡幅工）の数量を算出する。

3. 区分

区分は、規格とする

(1) 数量算出項目一覧表

項目	3次元モデル	属性情報			
		規格	単位	数量	備考
チッピング（厚2cm以下）	B	×	m <sup>2</sup>		
アンカー筋挿入（コンクリート沓座拡幅）	B	○	本		
アンカー筋（材料費）	B	○	本		
注入材（材料費）	B	○	本		
鉄筋（沓座拡幅工）	B	○	t		
型枠（沓座拡幅工）	B	×	m <sup>2</sup>		
コンクリート（沓座拡幅工）	A	○	m <sup>3</sup>		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(記載の変更)

注意事項		(控え頁) 1/1
------	--	--------------